



# 世田谷文学館友の会 おしらせ 第162号

2022年12月13日  
世田谷文学館友の会  
〒157-0062  
世田谷区南鳥山1-10-10  
世田谷文学館内  
FAX 03-5374-9120  
ホームページ  
<https://setabuntomo.net/>

## 世田谷文学館友の会講演

### 森 まゆみ氏講演

#### 林 聖子 —— 新宿のバー「風紋」の女主人

「風紋」に連れて行ってもらったのは大逆事件の刑死者の慰霊祭の後だった。女主人聖子さん(1928-2022)の父、林倭衛(しずえ)画伯は大杉栄の親友で、聖子さんは子供の頃からたくさんのアナキストと出会ってきた。複雑な家庭、父の死、17歳で終戦を迎え、母を失い、一人で生きてきた。恋をし、芝居に目覚め、しかし暮らしのために銀座のバーに勤め、33歳で新宿に自分のバー「風紋(ふうもん)」を開いた。

聖子さんと太宰治は戦前から縁があった。

「(敗戦の翌年、太宰が家にやってくる) 懐からひどく真面目な顔で『中央公論』新年号を出して『これは僕のクリスマスプレゼント』と言って、雑誌をくださいました。そこに載っていた『メリイクリスマス』では私が主人公の少女のモデルで、母親が広島空襲で亡くなった孤児ということになっています。三鷹の本屋での(太宰との)再会の様子が、より洗練された形で描かれていて、私はこれを読むと、ずっと昔の自分に出会うことができます」と聖子さんは語っている。

「風紋」は酒場であったが、古田晁(筑摩書房社主)、檀一雄、井伏鱒二、竹内好、木山捷平、吉村昭、野坂昭如、浦山桐郎、加賀乙彦、粕谷一希、高田宏などが常時訪れ、文化運動、思想運動の結節点でもあった。

父譲りの自由な精神で、誰にでも開かれた「止まり木」を60年、提供し続けた聖子さんの人生、聞き書きで記録した思いを語る。  
(講演者からのメッセージ)

講演者 : 森 まゆみ 氏 (作家・エッセイスト)

日時 : 2023年2月12日(日) 午後2時~4時 (受付1時半より)

会場 : 世田谷文学館 2階 講義室 ※ご参加者はマスク着用をお願いします。

参加費 : 会員800円 会員以外1000円

申込締切日 : 2023年1月30日(月) 必着 (応募者多数の場合は抽選)

※参考図書 : 森まゆみ著『聖子 新宿の文壇 BAR「風紋」の女主人』(亜紀書房、2021年10月刊)

#### <森まゆみ氏ご紹介>

作家、エッセイスト。1954年東京都文京区生まれ。中学生のときに大杉栄や伊藤野枝、林芙美子などに関心を持つ。早稲田大学政治経済学部を卒業後、出版社勤務を経て1984年、地域雑誌「谷中・根津・千駄木」を創刊。地元主婦仲間と共に取材、聞き書きに努め、記憶を記録に変えてきた。「TOKYO ウォーカー」的な情報誌とまったく異なるこの雑誌は、地域の文化を再発見し、地域を掘り下げることで地域を普遍化する試みとして高く評価される。この活動から、著書『谷中スケッチブック』『谷根千のイロハ』『「谷根千」の冒険』『「谷根千」地図で時間旅行』等々が生まれた。

近代文学にも造詣が深く、1997年『鷗外の坂』で芸術選奨文部大臣新人賞を、2003年『「即興詩人」のイタリア』でJTB紀行文学賞を、2014年『「青鞥」の冒険 女が集まって雑誌をつくるということ』で紫式部文学賞を受賞。女性の生き方について、旅の楽しさについて等々、示唆に富む評伝やエッセイの著作も多い。

(裏面に続く)

## 新春散歩 東京都立多磨霊園 文人掃苔巡り

～日本初の公園墓地、開設100年、都立8霊園のなかで最も広い霊園～

府中市にある多磨霊園は、大正12年(1923)、武蔵野の草深い原野30万坪(のち10万坪を買い足した)を当時の東京市が買収し、日本で初めて公園的風景を取り入れて造成した大規模な墓地である。それ以来、公園墓地は全国に作られていった。近年、著名人の墓を参り、その人物に思いをはせる掃苔がひそかなブームになっている。霊園には、此岸彼岸をつなぐ独特の雰囲気がある。多磨霊園が生まれて100年となる新たな年の初めに、霊園に眠る尊敬する故人と対話をし、一年の計を立てるのもよいかもしれない。

多磨霊園でその足跡に触れる文人は、大岡昇平、有島武郎、辻邦生、北原白秋、与謝野鉄幹・晶子、三島由紀夫、岡本かの子・一平・太郎、中島敦、岸田國士、吉川英治、石坂洋次郎、菊池寛、田山花袋、巖谷小波、堀辰雄、向田邦子、江戸川乱歩、横光利一、徳富蘇峰といった、一時代を築いたそうそうたる面々である。最後に巡る直木三十五の追悼碑も興味深い。

み墓べの今朝の静けさひとりみるわれの心は定まりにけり 古泉千樫『古泉千樫歌集』

- 日 時 : 2023年1月27日(金)及び1月29日(日)(両日とも同じコース、小雨天決行)  
集 合 : **12時40分集合**、京王線「**多磨霊園駅**」改札口(改札口は一箇所、会旗あり)  
コ ー ス : 北口バス停から「武蔵小金井駅」行きに乗車(13:04発、所要時間10分程)  
⇒「多磨霊園表門」下車 ⇒ 多磨霊園内休憩所(トイレあり)にて概要解説  
⇒ 約25名の文人の墓所を巡る ⇒ 休憩所に戻る ⇒ バス停「多磨霊園表門」  
から京王線「多磨霊園駅」行きに乗車、駅で解散(16時予定、歩行約6km)  
案 内 人 : **原 敏彦氏** (文化遺跡探査者)  
参 加 費 : 1100円(ガイド料、保険代含む。\*行程中のバス代は各自別途負担。)  
申 込 締 切 : 2023年1月16日(月)必着、**第一希望日・第二希望日を必ず明記ください。**  
募 集 人 数 : 各日15名程(応募多数の場合は抽選)※ご参加者はマスク着用をお願いします。

~~~~~

**俳句鑑賞会** 2023年1月24日(火)、2月14日(火) 午前10時半～正午  
文学館2階講義室 参加費 200円 秀句一句とご自作があれば一句お持ちください。

\*次の「おしらせ163号」は2023年2月上旬発行予定です。

\*2023年2月20日～2月28日の期間、世田谷文学館は館内整備休館となります。

### <催事変更の場合のお知らせについて>

当会の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策は、国や都、世田谷区の方針に沿って対応してまいります。状況によりご案内の催事をやむを得ずキャンセルする場合などは、ホームページの**友の会イベント**欄などでお知らせします。また、催事参加ご案内(返信)後は、対象者へお知らせします。

### <催事参加申込み方法>

★ホームページ「**世田谷文学館友の会**」>「**イベントお申し込みページ**」で申し込みが可能です。

★「**往復はがき**」でのお申し込みは、下記の事項を記入してお送りください。

- ①催事名 ②開催日・参加希望日 ③現在お持ちの会員番号(会員以外の方は「非会員」と明記)  
④住所・氏名(ふりがな必須)・電話番号(散歩応募の場合は携帯番号) ⑤今後ご希望の講座・散歩など。

連名申込み可(③と④を必ずご記入ください。また返信用はがきの宛名にも連名者氏名をお忘れなく。)

参加費は当日お支払いください。

宛先 〒157-0062 世田谷区南烏山1-10-10 世田谷文学館内 「**世田谷文学館友の会**」 FAX 03-5374-9120

ホームページ 「**世田谷文学館友の会**」> <https://www.setabuntomo.net/> **友の会入会随時受付中!**

お問い合わせは友の会専用携帯:080-1154-1562へ。毎週火曜日10時から17時、友の会スタッフ在館。